

令和3年度留萌振興局農業農村整備事業環境情報協議会 議事録

月 日 令和3年10月8日（金）

場 所 苫前町公民館・農村環境改善センター
1階多目的ホール

○協議地区

- ① 農村地域防災減災事業（用排水施設整備事業） 北長島地区（苫前町）
- ② 農村地域防災減災事業（用排水施設整備事業） 八線沢溜池地区（苫前町）

北海道留萌振興局産業振興部農村振興課

【協議会出席者】

◇協議会委員

○環境に関する専門家

濱野 孝 羽幌みんなでつくる自然空間協議会事務局 ほか
小丹保 隆二 苫前町代表監査委員 ほか

○地域住民の代表

伊藤 まち子 北海道指導農業士 ほか
上田 博和 農業 ほか

○農業関係者

伊藤 博 苫前土地改良区理事長 ほか

◇市町村、土地改良区

○苫前町

佐藤 由貴 農林水産課 農政係主査

○南るもい土地改良区

越後 和己 事務局長
高瀬 徹 主任技師
福田 怜也 技師

◇留萌振興局

○農村振興課

中村 文信 農村振興課長
伊藤 光昭 主査（農村振興）
森 隆徳 主査（地域計画）
中山 裕 地域計画係長
木村 健一 専門主任

■令和3年度留萌振興局農業農村整備事業環境情報協議会

① 農村地域防災減災事業（用排水施設整備事業） 北長島地区（苫前町）

【事業概要の説明】

【意見交換】

（小丹保委員）

- ・落水してからの工事であり水はそんなに出ないと思うが、資料にある「近隣の河川に土砂や汚濁水が流れ込まないように対策を講じる。」とは、どういう対策をするのか。

（農村振興課）

- ・工事中の汚濁水対策について、一般的な対策としては、上流側でせき止め、沈砂池で泥水を沈殿させ、上水を流す方法を想定しています。詳細は、実施設計時に改めて検討します。

（小丹保委員）

- ・水路を木杭で支えるとのことだが、木杭は腐らないよう処理されているのか。また、どのくらいの期間持つのか。

（農村振興課）

- ・木杭に防腐処理はしませんが、地中に埋まることで空気に触れないため、腐らない構造となっています。

（小丹保委員）

- ・先ほど現地に行く際に通ったが、かなり道路状況が悪い。羽幌町からの道路なので結構大きな車両も走る。車両通行の振動による影響は無いのか。

（農村振興課）

- ・振動の影響についてですが、前回整備した道路横断 2 箇所には木杭を打っており、その場所を測量したところ、整備した時と変わらない高さでした。整備から 20 年ほど経っていますが、沈下せず当時の高さを保っていることから、木杭を打つことで沈下を抑えられると考えています。今後何十年も大丈夫とは言い切れませんが、トラフの耐用年数程度は木杭で十分対応できると考えています。

(伊藤まち子委員)

- ・木杭の長さは妥当なのか。

(農村振興課)

- ・現時点では、近傍のボーリングデータ等を参考に木杭の長さを決めています。
来年度の実施設計の際にボーリング調査を行い、実際の路線下の土質の状況を確認して、その結果から改めて杭の長さ、太さ、本数などを設計します。

(伊藤まち子委員)

- ・泥炭とのことであるが、道路が近く、大型車による振動は特に伝わりやすい。
振動によって木杭ごと上下しないのか。

(農村振興課)

- ・振動による影響についても、来年度の実施設計の中で検討します。

(伊藤まち子委員)

- ・他の地区や泥炭の地域では一般的に使用されている工法なのか。

(農村振興課)

- ・管内では実施されている事例は少ないですが、空知、石狩などの泥炭地域では一般的な工法です。

(上田委員)

- ・杭は浮いてそれを保つ感覚でいいのか。地耐力が無いからその下まで杭が入るのか。

(農村振興課)

- ・一般的な住宅などとは異なり、杭を安定地盤まで入れず、土の摩擦で止めることを想定しています。

(上田委員)

- ・道路の高さが上下するかもしれない中で、水路の高さ、水の流れは保てるのか。

(農村振興課)

- ・トラフの高さの位置を保つための基礎杭であり、道路などは上下するかもしれませんが、トラフの高さは保たれます。

(伊藤博委員)

- 落水後の工事とのことだが、工事期間中、降雨があるとヘドロが出ると思う。ため池から本流までの間に用水をポンプアップしているところが4箇所ほど有るため、工事により発生したヘドロが水路に入らないようにして欲しい。春先にポンプアップした際、ヘドロを汲み上げるとポンプに影響が出るためヘドロや汚水を流さないような工事をお願いしたい。また、秋口の工事とのことであるが、川に鮭が遡上する時期なので、こうした部分への配慮もお願いしたい。

(農村振興課)

- 工事期間中の汚濁水等の対策については、周辺の古丹別川、枝沢にも鮭が遡上するとのことなので、十分に配慮した対策を行います。

(濱野委員)

- 一番心配されるのは汚濁水の問題。沈砂池等で汚濁水を出さない、流さないように工夫をしたいとの話があった。是非、万全な対策をお願いしたい。
- 次に木杭の問題。泥炭地ということもありそれが効くのか心配。色々な場所で事例があるとのことであったので、より良い工事をお願いしたい。

(農村振興課)

- 了解しました。

以上。

② 農村地域防災減災事業（用排水施設整備事業） 八線沢溜池地区（苫前町）

【事業概要の説明】

【意見交換】

（小丹保委員）

- ・地盤改良工法では、ピンポイントではなく全面的に土を入れ替えるのか。

（農村振興課）

- ・全面の土を入れ替えるのではなく、施工箇所を、例えば5m×5mなどのブロックに分けて、そのブロックを固めるために必要な量のセメント薬剤を入れ、かき混ぜて固めていく工法です。

（小丹保委員）

- ・セメントと堤体の土とを混ぜ、戻して固めていくのですね。アルカリ性の薬剤を使うので、これが河川に流れ出るのは非常に良くない。処理の方法で「炭酸ガス法による」とあるが、どういった工法なのか。

（農村振興課）

- ・炭酸ガス法とは、アルカリ性の水を炭酸ガスで中和させ、pH(水素イオン濃度)を下げる工法です。ガスを注入するだけの工法なので小さなユニットで処理が可能です。

（小丹保委員）

- ・使用するセメントはすぐに固まるのか。薬剤によってはすぐに固まる物もあるが。

（農村振興課）

- ・使用するセメント薬剤については、来年度の実施設計に入ってから詳細を決定します。アルカリ水の流出防止についても、実施設計時に十分に検討を行い適切に実施します。

（小丹保委員）

- ・セメント、薬剤を使用するので下流に流れ出るのは心配。ため池内から他に流れ出る水もあるので十分気をつけて欲しい。下流へ、堤体から出ていないか確認しながら進めてほしい。

(伊藤まち子委員)

- ・地盤改良工法では、トレンチャーの様なもので土をかき上げて、セメントなどを混ぜて固め、汚濁水についてはラグーンを設けて水を集め処理施設で pH 等を調整するとのことだが、すぐ近くに民家はないと思うが全工程において騒音の問題はないか。
八線沢地区は、クマやエゾシカがいるので、音で人里や畑に野生動物が来てしまう心配がある。配慮する点に加えていただきたい。

(農村振興課)

- ・住宅街などでも実施されているので、低騒音の機械もあると思います。頂いた意見を踏まえて実施設計時に工法や機械を選定する際は野生動物に配慮したいと思います。

(伊藤まち子委員)

- ・工事期間はいつ頃なのか。

(農村振興課)

- ・来年度は実施設計を行うので、工事は令和 5 年度～7 年度までの 3 か年を予定しています。施工時期は落水後の秋から冬にかけてを想定しています。

(伊藤まち子委員)

- ・最近の気候では、夏場に干ばつになったり、突然大雨が降ったりと異常気象が発生しているので、汚濁水処理対策についても万が一に備えた対策をしていただきたい。

(農村振興課)

- ・了解しました。

(上田委員)

- ・次の世代、若い人たちが農業を持続させるために事業をやって頂けるとのことであり、感謝。
- ・汚濁水の処理について、配慮して進めるとのことなので、よろしく願いする。

(伊藤博委員)

- ・ため池のそばまで田んぼもあり営農作業と工事の重複があるか分らないが、営農に支障の無いように地域の農家と連携しながら進めていただきたい。
大きい重機も入ると思うので、先ほど通りましたが耕作道路も狭いため、暗渠を壊したり田んぼを崩さないように検討しながら進めてほしい。

(農村振興課)

- ・仮設道路の配置計画や、耕作道路の使用に際しては地権者の了解を得ながら進めていきます。

(濱野委員)

- ・八線沢ため池地区の稀少動物、魚類、鳥類の調査はされているのか。

(農村振興課)

- ・工事施工時は、ため池に水が無い状態であるため魚類、動物の調査は実施していません。

(濱野委員)

- ・鳥類について、工事の時期が秋から冬であればの繁殖時期からは外れるので良いと思うが、そもそもこの付近にいるかどうか調べてはいかがか。※

(小丹保委員)

- ・ため池に水が無い状態であっても、川として流れがあるので、できればどのような生物が生息しているか調べておいた方が良いのではないか。工事で薬剤を使うので、もし流れ出た時に影響が出るのか少し調べておいた方が良い。※

(農村振興課)

来年度、調査を実施します。

以上。

※調査結果につきましては来年度の環境情報協議会にて報告させていただきます。